

助成事業実施報告書

団体名 タマリバティアカデミー

代表者・役職名 氏名 朝倉泰行・理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

第3回 多摩市少年少女ティーボール大会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

多摩市議会議員20年終えた理事長が、多摩市の公立小学校長11年を終えた副理事長に呼びかけ「不登校の児童をもう泣かせない」という気持ちで発足し、大学教授・弁護士等賛同者が加わり本会を設立。その後、「引きこもり」の相談支援や障がい者のスポーツ大会開催を始める。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

「不登校の児童・生徒」「ひきこもり者」「障がいのある青少年のスポーツ大会」が多摩市では行っていなかった。そこで、ティーボール大会を多摩市教育委員会・多摩市社会福祉協議会の後援を得た。なお、真如苑の助成や大妻女子大学・八王子実践高校硬式野球部の協力を得て実施した。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「不登校の児童・生徒」「ひきこもり者」「障がいのある青少年」が青空の下心行くまでスポーツを楽しめるよう、ティーボール大会(彼らでもやりやすい野球型のスポーツで身体が不自由でもできるルールがある)を通して、体を動かすよろこびを実感させることにより、社会性の伸長を図る。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

3回目の大会で、運営はスムーズに出来た。参加者は総勢50名程度であった。この大会の認知度が高まってきた。なによりも、情緒障害児は、気に入らなければ、すぐそれを表面にだすが、全員とても喜んで、目が輝いていた。多摩市でも、この大会を直接引き継ぐことはしてくれなかったが、総合体育館等で、障がいのある児童青少年のスポーツ講習に力を入れてきた。それが目に見える結果であった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

参加する障がいのある児童青少年は、情緒障がい者がほとんどである。この子達は個人で他の子と一緒にスポーツをすることはとても難しい。引率者がいて自分たちの仲間と一緒にないとほとんど参加しない。働き方改革が叫ばれ、教師の仕事を減らそうとしている現状では、この引率者の確保が困難である。「ほくもでたいなあ」と言いながら参加できなかった、児童生徒をいかにして参加できるようにするかが今後の大きな課題かである。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

